



えがお

vol.34

発行：さいたま市立病院
発行者：院長 窪地 淳
住所：さいたま市緑区三室 2460
電話：048-873-4111
<http://saitama-city-hsp.jp>

院長あいさつ



さいたま市立病院では平成26年から新病院の建築に取り掛かってきましたが、この新病院の建築も漸く最終章を迎える年となり、今年の9月に完成する運びとなってまいりました。

現在の建物は浦和市立病院時代からのもので、今では老朽化・狭隘化が激しく、患者さんには大変ご迷惑をお掛けしてきましたが、新病院への建て替えによって患者さんの療養環境は格段に改善し、当院も名実共にさいたま政令都市のさいたま市立病院として生まれ変わることができるものと確信している次第です。

我々は、高度な医療を提供し、皆様にとって安心・安全な地域社会を構築することが使命だと考えており、この観点から新病院では更なる医療機能の強化を図り、高度急性期・急性期の医療を提供し、市民の皆様が特殊なケースは別としても東京など他の医療圏の医療機関に行つて治療を受けなくても、住んでいるこの地で当初から治療が受けられる「地域完結型」の充実した医療体制が構築できるよう、その一役を担うべく準備をしているところです。

少し具体的に取り組み内容をご説明しますと、新病院では血管内治療の充実を図り、手術室を増設した上、手術支援ロボット・ダビンチを設置（平成30年11月からロボット支援手術を開始していますが）し、放射線検査装置を併用したハイブリット手術を可能とし、また放射線治療の充実を図り、化学療法室や無菌室を拡充し、更には感染症への対応など既存の医療機能の強化を図ります。更に新たに救命救急センターをはじめとし、精神科身体合併症を管理する病棟更には緩和ケア病棟などを設置し、高度

急性期・急性期の医療を提供し政令都市の自治体病院に相応しい総合病院へと整備しています。

また、皆様もご存知のことと存じますが、医師の働き方改革が医療の現場に大きな課題として降り掛かっています。この課題は医師のみならず他の分野にも課せられてはいますが、全国的に他の職種と比較して医師の時間外勤務が最も多くなっており、医師は労働者であるとの前提で、医師の業務量・労働時間数をどのように削減し医師の健康確保をどのように図っていくかが大きな課題として取り上げられている訳です。当病院としても、労務環境の改善に取り組まなければなりません、医療の質を落とすことなく取り組むには大変困難を要するものと考えています。皆様にも、病状の説明を基本的には平日の日勤帯に行く、症状が軽症の場合は夜間は避けて日勤帯に救急外来に掛かるなどといったご協力を今後お願いすることになるかと思いますが、その際にはご配慮頂けるよう宜しくお願い申し上げます。

今年は、この様に我々も多くの課題に取り組まなければならない年でもあります。このことで皆様にご迷惑をお掛けすることがないように心掛けていくつもりですので、ご理解の上ご配慮くださいますよう宜しくお願い致します。



リードレスペースメーカー

循環器内科 石川 士郎

ペースメーカーは、徐脈性不整脈に対する確立された治療法として知られ、広く普及しています。通常ペースメーカー本体は胸部の皮下ポケットに留置され、本体からリード（導線）で心筋に電気信号を伝達しています。本体の小型化、リードの改良、ペーシングプログラムの向上により、ペースメーカー治療は大きく発展してきましたが、鎖骨下静脈穿刺時の血管損傷、気胸、リードの断線、静脈閉塞、皮下ポケットからの感染等のリスクは依然として大きな課題として残っています。これらの課題を解決するため、右心室内に留置するペースメーカー（メドトロニックMicra経カテーテルペーシングシステム、以下 Micra）が開発され、当院でも平成30年5月より使用しています。

Micraは、従来品と同等の機能で重さ1.75g、1ccにまで小型軽量化されています（図1）。本体を皮下に植え込むのではなく、大腿静脈よりカテーテルを用いて心臓内に送り込み（図2）、直接心室に留置できます（図3）。カプセル型で、小さなフックで心室壁に取り付けられ、先端の電極を通じて電気刺激を送り、ペーシングを行います。従来のペースメーカーと異なり、胸部の皮下ポケットやペースメーカー本体と心筋をつなぐリード（導線）に関連する合併症のリスクがなくなります。また、外科手術による胸部の傷もなく、外からは装置のふくらみもないため、患



図1

者さんが外観上判別できず、装置を意識することなく生活できます。

Micraの電池の予測寿命は約12.5年です。電池が消耗した場合、従来のペースメーカーは皮下に留置したペースメーカー本体を取り出し、新たなペースメーカーと交換していました。一方、右心室に留置されたMicraは取り出すことができないため、電池消耗時には右心室内にMicraを追加留置します。追加留置の際は、電池が消耗した製品を電源オフにするにより、電氣的にデバイス同士が互いに干渉することなく、追加のデバイスの留置ができます。

ペースメーカーには右心房、右心室にリード留置し、心房、心室それぞれの電気信号を感知し、心房、心室の電気刺激を行うことができるものと、右心室のみにリードを留置し、心室の電気信号を感知し、心室のみの電気刺激を行うものがあり、不整脈の種類により適したペースメーカーが異なります。Micraは右心室に留置され、心室の電気信号を感知し心室のみを刺激します。従来のペースメーカーのうち右心室のみにリードを留置するタイプのものと同様の機能であり、徐脈性不整脈の患者さんすべてにMicraが使用で

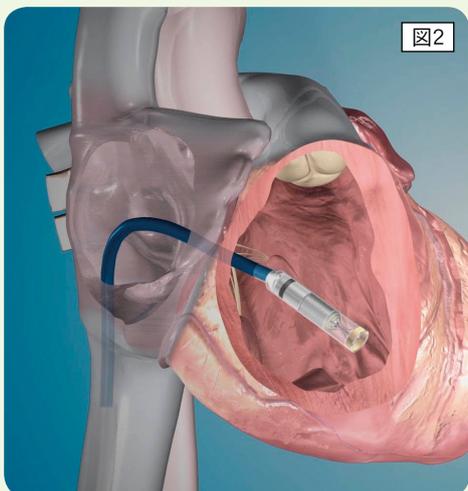


図2

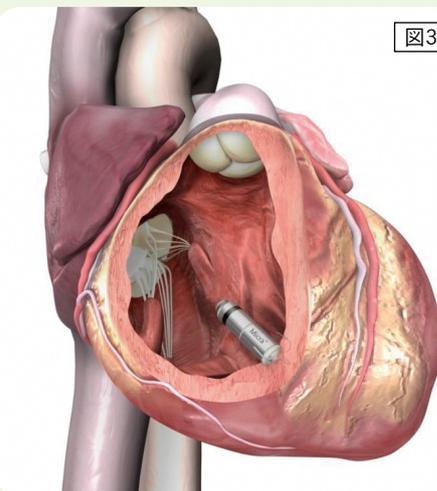


図3

きるわけではありません。現時点では、徐脈性心房細動などの。患者さんが適応となります。

Micraの導入により、徐脈性不整脈の治療に新たな選択肢が生まれました。当院では、Micra使用に適した患者さんを慎重に選び、現在までに11例の患者さんに植え込んでいます。

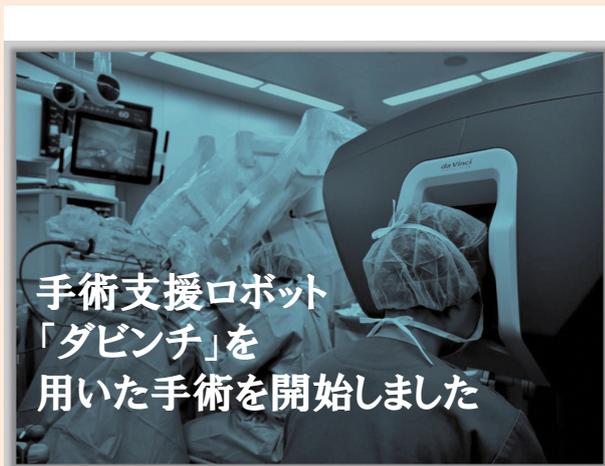
ベテラン医師のひとりごと

ロボット支援手術を開始するにあたって

泌尿器科部長 増田 毅

ロボット支援手術が日本に導入されて、丸12年になります。当初は前立腺がんの手術が広く行われておりましたが、ここ最近は肺がん、胃がん、直腸がん、子宮がん手術なども行われ、本年度からそれらの手術についても保険適応となりました。ロボット支援手術を行うには専用の手術機器が必要です。また、手術技術の取得が必要です。これらをクリアしてさいたま市立病院でも新病院開院に先立って11月より前立腺がんの手術を開始しました。

ロボット支援手術と開腹手術の違いは为什么呢。ロボット手術は精密な、まさにミリ単位の手術が可能ですが、一方、触覚はありません。開腹手術では触覚が重要な技術のひとつです。ロボット支援手術は数例から十数例で一定の手術技術が習得可能と言われております。



手術支援ロボット「ダビンチ」を用いた手術を開始しました

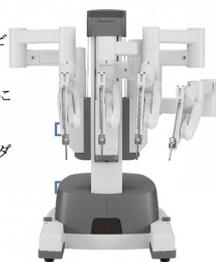
ダビンチとは内視鏡下手術を支援するロボットです。患者さんの負担が少ない内視鏡下手術の特徴とロボットの人間以上に繊細な動きを併せ持った手術がこのダビンチ手術です。

アメリカでは前立腺がんの手術の8割がダビンチ手術になっており日本においても増えています。

当院では平成30年11月より最新鋭の機械を導入してダビンチ手術を開始しました。

現在は前立腺がんを対象にダビンチを用いた手術を行っています。近いうちに将来適応拡大を図ります。

詳しくは泌尿器科医師にご相談ください。



一方、開腹手術は経験数を重ねることにより熟達すると考えます。

さて、前立腺がんについて簡単にご説明いたします。前立腺がんは、健康診断などで行う血液検査のPSA測定で疑いがあるかどうか調べます。PSAの数値が高いとがんの疑いがあり、その場合には針生検で組織を調べてがんの確定診断を行います。その後、MRI、CTなどの画像診断で病期（がんの進行のことです）を診断します。これらの検査結果から、がんが前立腺内に止まっている場合には手術や放射線治療といったがん細胞を全て除去する治療が可能です。

従来、手術治療としてはおへその下を約10cm切開して行なっておりました。私が当院に赴任して23年になりますが、その間約1000人の患者さんの手術に臨んでまいりました。日本でも有数の手術件数と自負しております。20年前には前立腺がん手術というと何時間もかかり、出血も多量で難しい手術と言われておりました。一方、私どもでは約1時間半の手術時間、入院期間は9日間でなっただけでまいりました。まさに、ロボット支援手術と同等の成績であります。しかし、手術後の痛みと傷の大きさは如何ともしえません。今後もロボット支援手術が前立腺がんのみならず、様々な病気の手術に広がっていくと考えており、当院でもどんどん導入してまいります。その一方、私としては私自身の開腹手術の経験が必要とされる患者さんはこれからも必ずいらっしゃると思っています。その志を胸に私は今後も研鑽に努めてまいります。

いきいき百歳体操のご紹介

院内の入院患者さんを対象にした「いきいき百歳体操」が、毎週月曜日にさくらそうA病棟ロビーを利用して開かれています。さいたま市が推進する「いきいき百歳体操」第1期サポーター養成講座を修了したボランティアの協力で2017年11月から始められ、緑区の担当理学療法士に考案していただいた、車椅子でも可能な無理のない内容で行っています。普段、病室でカラダを動かすことの少ない患者さん、「久しぶりにスッキリした」「自宅でも続けたい」と好評です。【「いきいき百歳体操」第1期サポーター 海老川さん】

※いきいき百歳体操とは・・・足腰や肩の筋肉を鍛えて転倒しない体づくりを行うための6種類の体操。



ボランティアの皆さんとさくらそう病棟看護師



椅子に座ってゆっくりと手足を動かします。



さいたま市立病院 新病院建設工事について

平成31年1月23日撮影

病院本館の外壁工事に着手しています。
屋上階も着々と工事が進んでいます。

	病院本館	別館棟	仮設設備
2018年12月	躯体工事、鉄骨工事(6節)、耐火被覆工事	仮設資材ヤード・山留工事	クレーン揚重作業、外部足場組立
2019年1月	躯体工事、外壁工事、耐火被覆工事	山留工事	クレーン揚重作業、外部足場組立
2019年2月	躯体工事、外壁工事、耐火被覆工事	躯体工事	クレーン揚重作業、外部足場組立

※広報誌「えがお」は年4回発行しています。次回は平成31年3月発行予定です。
さいたま市立病院ホームページもご覧ください。http://saitama-city-hsp.jp/

※この印刷物は700部制作し、1部当たりの印刷経費は81円です。

